

第19回 通常総会 記録

日時 昭和63年 6月11日 午後1時30分～  
場所 富 山 県 農 協 会 館

昭和62年度の事業の終了にあたり、ここに事業の概要について報告します。

まず、農業の近代化により引き起こされます諸問題では；昭和45年以来継続しております農業機械災害事故調査、また、昭和55年より実施致しております農業機械以外による農業災害事故調査を継続して実施してきました。さらに、昨年度より始めました農薬中毒の実態調査も継続して行っております。特に、農薬中毒における問題では、果樹栽培者の農薬散布による健康影響について、新たな検査項目による検討を行い、この点で貴重な知見を得つつあります。

ところで、各種の農業形態により引き起こされる健康問題についても新たな調査研究に着手しています。その一つとしてチューリップ栽培者のチューリップ皮膚炎、ネギの皮剥き機使用による聴力への影響等についても検討してまいりました。さらに各種農作業の作業姿勢に由来する肩凝り、腰痛等について、特に梨栽培者の上向き姿勢、野菜栽培者の中腰姿勢等について神経の刺激伝達速度の測定等、新たな手法による問題把握に努めてまいりました。これらの研究はようやく端緒についたところであり、今後さらに検討を要する課題と言えます。以上、農業医学的問題において、昭和62年度は種々の新しい試みを行ってきました。

次に、農村における健康状態の把握についても引き続き行ってきました。農村検診センターにおける検診等各種検診や健康調査が実施され農村における健康管理上の課題が明らかにされてきております。特に、農村における死亡原因の特徴を把握するため、昭和55年以来の富山県の農村地域の居住者の死因調査を実施し、都市部とは異なる健康管理上の課題の把握に努めてまいりました。

なお、これらの課題のうち農薬中毒及び農村における死亡問題は厚生科学研究の一部としても行っています。

以上の研究成果は、第36回日本農村医学会や「第5回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会」等の各種学会や本会会誌等で発表しています。特に昭和62年8月にハンガリーのペーチ市で開催された第10回国際農村医学会では、5名の本会会員がその研究成果を発表しております。

以上の本会の活動は、医療関係者はもとより行政、農協、及びあらゆる職域の方々の協力により実施されてまいりました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに調査研究に鋭意取り組んでまいりたいと思いますので、会員各位の多大なるご協力をお願い致します。

最後に、県当局、農協各連より絶大なるご援助に対して厚くお礼申し上げます。

総会議事の概要

会 員 総 数	281名	うち出席者76名	委任状147名
会 長 挨 拶	豊 田 文 一		
議 長 選 出	厚生連本所 木 村 実		
議事録署名者	富山市 柳 井 道 之 滑川市 石 倉 俊 宜		
書 記	橋 本 賢 治 田 畑 篤		
議 事	第1号議案 昭和62年度事業報告書、財産目録、収支決算報告承認について		
	第2号議案 昭和63年度事業計画及び収支予算案承認について		
	第3号議案 役員の一部改選について		
	第4号議案 顧問の一部変更承認について		

特 別 講 演 金沢工業大学教授 市 村 潤  
演 題 「日本民族は滅亡するか —21世紀の課題—」

第6回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会記録

日時：平成元年2月4日

場所：厚生連高岡病院  
地域医療研修室

第6回の研究発表集会は、平成元年2月4日、厚生連高岡病院にて、発表演題9題、特別報告1題参加約70名でおこなわれ、活発な討論がおこなわれました。

なお、発表演題名は下記の通りです。

＜プログラム＞

1. 会長挨拶 (13:40~13:45)
2. 会員発表 (13:45~発表時間10分 討論5分)  
 座長 城端厚生病院院長 寺中正昭 (13:45~14:45)
  1. チューリップ球根栽培農家の皮膚カブレの実態とその対策  
 砺波農業改良普及所 中西悦子 他
  2. 農作業環境改善による梨農家の健康管理  
 富山農業改良普及所 伊東百合子 他
  3. 富山県の空中花粉予備調査  
 —スギ科, ヒノキ科花粉の5観測点における比較—  
 富山医科薬科大学公衆学教室 寺西秀豊 他
  4. 老と死の医療  
 富山県農村医学研究会 越山健二 他  
 座長 富山市民病院院長 石田礼二 (14:45~15:45)
  5. 農村検診における偽性コリンエステラーゼ活性低値の検討  
 厚生連高岡病院健康管理 森内尋子 他
  6. 農村住民における血清中の尿酸と脂質  
 富山県衛生研究所 中崎美嶺子 他
  7. 飲酒並びに喫煙の健康に及ぼす影響について  
 —人間ドックの成績から—  
 厚生連総合検診センター 小川忠邦 他
  8. 検診センターにおける胆のう検診結果  
 厚生連総合検診センター 石川靖 他
  9. 高血圧患者の減塩食事指導  
 —ソルトバーの使用を試みて—  
 厚生連滑川病院 看護科 柳瀬清美 他

<特別報告>

座長 全国国保連合会顧問 越山健二 (16:00~16:30)

「最近の中国農村事情」

富山県農村医学研究会長

豊田文一

3. 閉会 (16:30)

# 役 員 名 簿

昭和63年 6 月11日

理 事	氏 名	役 職
豊田文一	田井喜彦	金沢大学名誉教授
温井	尾行雄	県医務課長
島荒	尾川秀	県普及指導課長
中中	田慶子	県公衆衛生課長
中渡	田辺正	前富山保健所長
中越	藤康	高岡保健所長
越石	山健	姫川病院長
石長	田礼二	富山大学教授
寺谷	田祐二	富山大学教授
黒中	崎正昭	全国国保医学会顧問
西能	正一郎	富山市民病院長
北川	鉄人	前国立療養所富山病院長
龍沢	俊彦	城端厚生病院長
小川	忠邦	県医師会学術担当理事
館野	政也	西能病院長
鈴木	木邦雄	北川内科クリニック院長
河八	木信一	厚生連高岡病院長
佐木	武久	厚生連滑川病院長
竹部	喜代子	県立中央病院副院長
跡部	治順	こまどり養護学園長
浦上	節子	厚生連高岡病院健康管理科部長
<b>監 事</b>		
大村	沢本武	厚生連高岡病院副院長
		高岡市農林部長
<b>顧 問</b>		
中正	沖橋源	富山県知事
浅本	名多田	〃 市長会長
織藤	井井	〃 町村会長
松山	井口	〃 医師会長
戸大	角秀	〃 厚生部長
小森	森外	〃 農業水産部長
		〃 農協中央会長
		〃 厚生連会長
		〃 信連会長
		〃 経済連会長
		〃 共済連会長

## 昭和 62 年度収支決算書

### 収入の部

項 目	予 算	決 算	増 減
会費収入	250,000	281,000	31,000
会費	250,000	281,000	31,000
助成金	1,800,000	1,800,000	0
助成金	1,800,000	1,800,000	0
特別負担金	3,480,000	3,480,000	0
特別負担金	3,480,000	3,480,000	0
受託料	100,000	100,000	0
受託料	100,000	100,000	0
雑収入	6,101	6,197	96
雑収入	6,101	6,197	96
前期繰越金	375,865	375,865	0
収入計	6,011,966	6,043,062	31,096

### 支出の部

項 目	予 算	決 算	増 減
会議費	700,000	656,522	△ 43,478
総会費	200,000	205,752	5,752
役員会費	500,000	450,770	△ 49,230
事業費	4,840,000	4,763,905	△ 76,095
研究調査費	2,100,000	2,311,147	211,147
専門委員会費	140,000	96,240	△ 43,760
研究集会費	500,000	538,350	38,350
会誌発行費	1,600,000	1,507,200	△ 92,800
編集委員会費	50,000	10,000	△ 40,000
通信費	150,000	79,308	△ 70,692
消耗品費	200,000	129,900	△ 70,100
備品・什器	100,000	91,760	△ 8,240
旅費交通費	160,000	54,020	△ 105,980
旅費交通費	160,000	54,020	△ 105,980
事務費	240,000	244,212	4,212
事務費	240,000	244,212	4,212
雑費	20,000	24,210	4,210
雑費	20,000	24,210	4,210
予備費	51,966	0	△ 51,966
予備費	51,966	0	△ 51,966
支出計	6,011,966	5,742,869	△ 269,097
次期繰越金		300,193	

# 投 稿 規 定

- 募 集 原 稿** 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。
- 投 稿 の 資 格** 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。
- 原 稿 の 送 り 先** 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪2番21号 富山県厚生連内）  
投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

## 論文原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostagmin等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 Mocacus rlesus, 山椒藻 Salvinabatah等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートルm, センチメートルcm, グラムg, キログラムkg等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロンの（:）ゴジックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。  
（図表は、特殊なものを除いては、出来あがり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）  
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（朱記）して下さい。

**無 料 掲 載** 原稿用紙20枚（刷上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

**有 料 掲 載** 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

- 文 献**
1. 雑誌の場合 著者名、標題名、雑誌名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭和52.5のごとく。）
  2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の箇所の頁を最後に）

**印 刷** 別刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

# 昭和63年度 事業計画書

昭和63年4月1日～平成元年3月31日

## ① 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

## ② 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
  - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
  - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
  - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
  - ・農薬中毒の実態調査
  - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
  - ・農業従事者の健康管理の調査研究
  - ・農事従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
  - ・高齢者に関する研究
  - ・社会変動による農業従事者の健康に及ぼす影響についての調査研究
  - ・都市近郊農村における社会医学的研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
  - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 環境汚染と農村における健康障害についての調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

## ③ 主な事業計画

1. 主な調査研究
  - (1) 農業災害に関する調査研究
    - ①富山県における農業機械災害事故調査
    - ②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査
    - ③農業機械災害事故のケーススタディ
  - (2) 農薬中毒に関する調査研究
    - ①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解明

- ②農薬散布者の健康調査
  - ・果樹栽培者（梨・柿）の農薬散布直前後の健康調査（呉羽，城端等）
  - ・チューリップ球根生産者の農薬の生体影響にかんする調査研究（砺波等）
  - ・検診センター受診者の農薬の慢性生体影響に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
  - ①チューリップ皮膚炎の実態調査
  - ②農村地区における花粉症に関する調査研究
    - ・富山県における空中花粉の飛散状況調査（井波他4カ所）
    - ・チューリップ花粉による花粉症的症状の原因調査（砺波）
  - ③山村住民のアレルギー疾患に関する調査研究（於：白峰）
- (4) 農作業姿勢と健康障害に関する調査研究
  - ①梨，蔬菜等栽培の健康障害の臨床的検索，特に神経の刺激伝達速度について
  - ②各種農作業姿勢のタイムスタディ
  - ③農作業姿勢からくる健康障害の改善方策に関する調査研究
- (5) ネギの皮剥き作業者の健康調査
  - ①ネギの皮剥き機の騒音分析
  - ②ネギの皮剥き作業従事者の聴力障害に関する調査研究
- (6) 農村における死亡の実証的研究
  - ①「中高年齢者の保健調査」対象者のうち死亡した者の実態調査
- (7) その他，農村における各種健康調査，特に地域環境との関連において
  - ①農村婦人の肥満調査の結果解析
  - ②農村における学童の保健調査の結果解析
  - ③肥満，アルコール，高齢者問題，肝疾患等各専門委員会に係わる調査研究
  - ④その他
- 2. 各種研究集会参加・交流並びに開催
  - (1) 学会等への参加
    - ①第37回日本農村医学会（昭和63年10月，青森市）
    - ②第4回アジア農村医学会（昭和63年10年，北京市）
    - ③インドネシアとの学术交流並びに学術協力
  - (2) 第6回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催  
（平成元年2月，厚生連高岡病院）
- 3. 会誌等の印刷物の発刊
  - ・富山県農町医学研究会誌第20巻の発刊
  - ・その他
- 4. 創立20周年記念事業
- 5. その他，目的達成に必要な事業



## 編集後記

昭和が平成にかわり、初めての会誌となりました。昭和の農村の幕明けは、いわゆる「昭和農業恐慌」で始まりました。当時の農村は、結核の蔓延、高い乳児死亡率、そしてなによりも病気になっても医療を受けることができない状態でした。

昭和63年、豊田会長の斡旋で本会からインドネシア・ハサヌディン大学と学術交流を行うことができました。現地の状況や学術交流の内容は、本誌にも掲載されましたが、現地の農村では未だ日本の昭和の前半を想起させるものとの感想が寄せられています。

ところで、本会が設立されて20年が経過し、会誌も第20巻を数えることになりました。この20年間に農村は大きな変貌を遂げて来ました。20年前には考えられもしなかった、米価の引下げ、米の減反、輸入自由化等、米どころの富山県の農家経済を直撃するような事態が現実に行進しています。

こうした中で、昭和の前半から続いている「健康よりも農作業」優先の状況が、今日の「転作面積の拡大」に伴い新たな形態で行進していることも否定出来ません。本会の役割は益々大きくなっていると言えます。

特に、本誌で取り上げている農村における保健、医療に関する課題は、フィールドと直接結び付く調査研究が中心であり、全国的にも極めて実践的な内容となっております。今後とも、豊かで健康な農村建設のために会員の皆様と一緒に一層の努力をしてみたいと思います。(事務局)

編集委員 越山 健二、長谷田祐作、北川 鉄人

---

富山県農町医学研究会誌 第20巻 平成元年3月25日印刷・平成元年3月31日発行  
富山市総曲輪2番21号・富山県厚生連内 電話 富山 (0764) 45-2307  
編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 秋 元 敏 夫  
印刷所 菅野印刷興業株式会社 富山県黒部市三日市1143 電話(0765) 54-0112

---